

こんにちは。
町長です。



幼保連携型認定こども園「(仮称)おがのこども園」 の創設に向けて

私は「子どもは町の宝」町全体で子育て支援を推進することを町政の柱として進めています。歴代町長も、子どもを生み育てる施策に一生懸命取り組んでまいりました。町では、平成27年度を初年度とする5カ年間の「小鹿野町子ども・子育て支援事業

計画」を策定し、計画の基本理念を「子どもを生み育てることに夢をもてるまち」として様々な事業展開を行っています。

この計画に基づき、小鹿野保育所に併設されていた子育て支援センターを旧三田川幼稚園の空き施設へ移転整備を行うなど、事業内容や人員体制の充実強化などがなされてまいりました。

さて、この計画の基になっている幼児数の推計ですが、現在この推計を大きく下回る状況になっています。計画では、平成31年1月1日時点で0歳児から2歳児の推計を191人と想定していましたが、実数は130人で大幅な乖離が生じています。

ところで、町の子育て支援策は、県内他市町村と比較してもトップクラスの充実度であると認識しています。具体的には、不妊に悩む方へのマイベビー支援事業、子育て支援金の給付、義務教育費の無償化(給食費の無料化、教材費の一部補助)、18歳までの医療費の無料化など数多くのメニューがあり、今年度は、第3子以降の子育て支援金の拡充を行いました。

このように子育て支援策を行っていますが、町の幼児数は、平成31年4月1日現在で、平成28年度生まれ

が45人、平成29年度生まれが43人、平成30年度生まれが34人と減少しています。平成20年度生まれの幼児数が104人であることから比較すると推計以上の減少となっており、県下トップクラスの子育て支援策を講じながら出生者数の増加が見込めず、大変厳しい状況となっています。

このような現状ではありますが、私は子育て支援策の後退は許されないと考えています。現在、令和2年度を初年度とする「第2期小鹿野町子ども・子育て支援事業計画」の策定を進めるとともに、公立保育所と公立幼稚園の一元化を図るべく幼保連携型認定こども園の創設に取り組んでいます。

認定こども園は、保育所と幼稚園の両方の機能を併せ持った施設で、現在の小鹿野幼稚園を活用して3歳児から5歳児が利用できるようにし、小鹿野保育所と両神保育所を小鹿野保育所に統合して、0歳(8か月)児から2歳児までが利用できる施設とする計画です。

厳しい町の財政状況ではありますが、幼保一元化を進めることで、幼児教育・保育環境や事業内容の充実を図り、将来を担う人材づくりを進めていかなければならないと思います。

認定こども園の創設に向けては、保護者の皆さんと職員による認定こども園準備検討委員会を組織し、主な協議事項に関する検討が終了しています。計画では、認定こども園の開設を来年4月1日に予定しておりますので、引き続き保護者の皆さんや町民の方々にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

小鹿野町長 森 真太郎